

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401657		
法人名	株式会社日進開発		
事業所名	グループホーム「さくらはうす」		
所在地	長崎県南島原市有家町山川21		
自己評価作成日	令和 2年 11月 5日	評価結果市町村受理日	令和3年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「さくらはうす」では9名と少人数ですが、それを活かした対応ができ介護理念を念頭に置き入居者様への思いやりを持ち接しています。職員1人1人が自覚を持ち「さくらはうす」での明るく家庭的な雰囲気は崩さずに生活をして頂いています。地域との交流に関しては、減少しつつありますが地域との繋がりを崩さずに今後も共に取り組んでいきたいと考えています。医療面では月一回の嘱託医の往診、週1回の訪問看護師の診察がある。職員の中にも看護師の資格を持っている者もおり気になる事は相談しながら随時、健康管理に努めています。「さくらはうす」の明るく家庭的な雰囲気は崩さずに入居者様1人1人に合った生活を提供出来るように共に生活していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームリビングの窓からは明るく温かな光が入り、天気の良い日には入居者がウッドデッキで外気浴を行いながらプランターの季節の花々を眺め楽しんでいる。ウッドデッキにはスロープを増築し、有事の際の避難経路として活用することで入居者の安全確保に繋がっている。地域の祭りや地元子ども会の行事に入居者も一緒に参加することで地域との交流を図るとともに、地域のホームへの理解を深めており、地域や子ども達との交流が入居者の楽しみとなっている。ホームは入居者と家族の繋がりを大切にしており、毎月の「さくら通信」での詳細な報告や、電話・手紙の支援を行い入居者・家族の安心に繋がっている。コロナ禍の中で十分な面会ができない現状にあるが、入居者の行事・生活の様子を収めた写真約1年分をアルバムにして家族へ渡すなど、家族の心にも寄り添っている。ホームは家庭的で温かく、心に寄り添ったケアに努めていることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 さくらはうす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に掲示し、就業前に確認出来る様になっています 毎月、会議の中で職員で話し合い目標を立て実践に繋げています	介護理念は玄関に掲示しており、職員は出勤時に確認し支援に取り組んでいる。ホームではスタッフ会議で理念に沿った月目標を設定し、毎日職員が日替わりで「目標達成評価表」を記入し共有を図るとともに、支援方法の振り返りを行うことで理念の実践に繋げている。入居者のケアについて話し合う際には、理念に立ち返り入居者本位に検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の子供会参加の七夕会や地域開催の文化祭はコロナウイルスの影響もあり行う事が出来なかった。七夕会については、子供達から七夕飾りが届きスタッフと入居者様とで飾り付けを行いました。 お礼の手紙をお渡ししてもらい来年以降の開催へと繋げるように努めた。	近隣の方より地域の情報や行事などのお知らせがあるほか、地元神社の祭りや鬼火など地域行事へ入居者とともに参加することで地域との交流を図っている。地元子ども会より今年度の七夕会開催の問い合わせがあるなど、ホームと地域の日常的な交流が窺え、入居者からも子ども達にお礼の菓子を渡したいと希望が挙がるなど入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験の受け入れも感染予防の意味で難しいと懸念しておりましたが、依頼もなく文化祭の中止となり地域との交流が不足していると感じた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催していますが、広域からの指示やコロナウイルス感染予防の3密を避ける取り組みとして当施設での開催が難しい状況である。 代替処置として書面での報告とさせて頂く。	昨年度は運営推進会議に行政・地域住民・家族・入居者の参加があったが、今年度はコロナ禍のため書面での開催となった。運営推進会議録は行政・地域住民・家族へ郵送しホームの実情を伝えており、助言や意見を得てサービス向上に活かしている。ホームは風水害訓練が実施できていない現状にあるため、運営推進会議の中で検討し、今後訓練を計画し実施する意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの現状を説明し理解と同意を得る。必要に応じて資料を配布し報告とする 支所が近い為、不明の事項があれば直接出向く事も多い。	ホーム近隣に市役所支所があることから、職員は積極的に訪問し相談するなど良好な関係を築いている。支所を訪問した際にはホームの実情を伝え、助言を得ている。職員は生活保護の方に関して市福祉課職員と連携を図り、手続きに関する助言を得るほか今後について相談を行うなどし、入居者が安心して生活できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修等で「身体拘束」に関する研修会の機会はある。 本社で開催する「身体拘束廃止委員会」への定期会議への参加 防犯面の観点から玄関の施錠は夜間帯のみ行っています	管理者は法人内の身体拘束廃止委員会の委員であり、今年9月の「不適切なケア」、11月の「スピーチロック」といった委員会内での研修に参加し、他職員へ伝達講習を行うことで振り返りの機会としている。職員は不適切な言葉掛けがあった際はその都度注意し合うことで改善を図っている。また、入居者が夜間眠れない時にはリビングで一緒に茶を飲み過ごすなど、入居者が安心して入眠できるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気ない言動が精神的な虐待へ繋がる事への認識が足りない事がある。 お互いに不適切な発言になっていないか注意できる関係性を造っていく		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加の機会もなく理解不足である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・施設長による口頭書面での説明を行い理解と同意を得ている いつでも気軽にご連絡頂けるような雰囲気作りを大切にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の制限もあり訪問する機会が減少していますが、毎月の手紙での報告や電話連絡を取っています。 相談ボックスは設置しているが、利用はない。 会議では意見交換を行い介護支援の統一を図っていく。	ホームでは毎月発行する「さくら通信」を活用し、ホームの実情や入居者の生活の様子について手書きの手紙を添えて家族へ郵送することで、ホームへの理解を得ている。家族の要望は面会時や電話連絡をした際に聞くよう努めており、入居者の要望については家族に伝え希望に沿えるよう取り組んでいる。また、入居者の行事・生活の様子を収めた写真約1年分をアルバムにして家族へ渡すなど、家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度スタッフ会議を開催しスタッフ意見交換を行い業務上で気付いた事は提案し職員間で話し合うようにしている。	ホームでは毎月のスタッフ会議で入居者の支援方法や業務について検討しており、夜間の入居者対応や転倒リスクを最小限に押さえるための取り組みなど、職員の意見を取り入れることで一部業務改善を行うなどし、サービス向上に活かしている。管理者は日頃から職員と話す機会を多く持ち、意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限りスタッフの希望に沿って対応を図っていますが、人員不足・スタッフの産休もあり改善が出来ていない。 不満はあるが、スタッフの協力は得られています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの影響もあり研修会の中止が続いています。 スタッフ1名 介護福祉士を受講予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の中止が続き他事業所との交流する機会が減少している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行動パターンや生活歴の把握し表情や言動を細かく観察する コミュニケーションを取りながら本人の様子等を傾聴するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に来所して来て頂き「悩みがないか」「今後どのようなケアを望んでいるか」等を聞き取りながら関係作りを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病歴や経歴の情報を職員間で共有する。日常生活の中で観察・傾聴しすぐに対応できるように取り組む。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方が出来る事やお手伝い等「役に立っている」と感じられる事を共に発見していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月さくら通信とご本人様の様子をお手紙にして担当者から家族様へ報告しています。又、遠方の方には折を見て連絡を入れて直接話ができる環境作りに配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限がある中ではあるが、気軽に面会や話が出る様に配慮しています。しかし、本年度に関しては、外出する機会は減少しています。	家族との面会は感染予防策を徹底することで可能としており、入居者の喜びとなっている。また、遠方の家族から手紙が届いた際には入居者がお礼の電話を掛けられるよう支援するほか、携帯電話を所有する方で、使用が困難な場合には職員が訪室した際に着信履歴を確認し、家族へ折り返しの電話支援を行うなど、関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを交え一緒に楽しむ工夫をしている。 また、洗濯物を一緒に 畳んで頂くなど入居者様同士が関わられる環境を見つけ提供。 楽しく会話をしながら出来るサポートをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本情報やアセスメント等の情報共有		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から思いを汲み取り表情や言動を観察し理解できるように支援する。	ホームでは入居前に面談を行い入居者の意向確認をすることで本人・家族の安心に繋げており、入居者本人の望む生活が送れるよう支援している。職員は入居者の隣に座ってゆっくり話をする時間をつくることで入居者の思いを引き出せるよう努めており、意向の把握に繋げている。聞き取った要望は「申し送りノート」に記載し、職員間での共有を図っている。裁縫が趣味の方には雑巾を縫ってもらするなど入居者の楽しみとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する時点での聞き取りや知り得なかった情報を収集し共有する。 よりよい生活が送れる様に活かしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態変化を観察し個人記録に記入する。 必要事項は申し送りノートに記入し職員間で共有する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を配置しスタッフ会議の時に話し合う状態に応じてケアマネジャーが作成する	入居者の担当職員が作成したモニタリング表をもとに職員間でケアカンファレンスを実施し、目標達成度や支援方法について検討した内容をケアプラン作成者に伝えることで、現状に即したケアプランとなるよう努めている。短期目標の期間は入居者の意向や状態に応じて設定しており、入居者主体の介護計画となっている。家族には面会時や電話でプラン内容の説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子は個人記録に記入。受診や体調変化等は申し送りノートへ記入する 分かりやすい様にマーカーで色分けし線引きしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りノートを活用しその人に合ったサービスの提供が出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響もあり毎年行っていた文化祭も中止と地域への参加支援が出来なかったが、感染対策に注意しながら外出する機会を作り提供しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の嘱託医の往診・週1度の訪問看護師の診察を受けています。早期発見・指示を頂き対応しています。 また、家族様の希望やご意見を確認し主治医に伝えより良い治療が受けられるように努める。	入居前のかかりつけ医が受診できるよう支援しており、遠方のかかりつけ医であれば家族の協力を得て受診している。ホームには毎月ホーム嘱託医による訪問診療があり入居者の健康管理に努めている。また、体調不良の場合は昼夜を問わず嘱託医へ相談し、必要な指示を得ることで早期治療に繋げており、入居者及び家族の安心となっている。職員は受診結果や体調の変化、処置内容を記載した「申し送り事項」にて情報を共有し、支援の統一を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中にも看護師がおり訪問看護師にも助言をもらいながら対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状況にもよるが面会可能であれば病室へ足を運び不安のない様に努める。治療状況や経過については病院やご家族様と連絡を取りながら今後について相談を行う(入院経過報告書の作成)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向や主治医と相談の上、治療方針を決定している。 看取りについては現状では行っていない	現在ホームでは看取りは行っておらず、家族にも入居時に説明し同意を得ている。治療が必要な際はホーム嘱託医と家族、ホームで話し合い、ホームで対応可能であるか検討し、できるだけ本人の希望に沿えるよう努めている。現在、入居者の重度化に対する取り組み状況として点滴対応が可能となっている。管理者は今後重度化についての研修会があれば積極的に参加し、知識を深めたいとの意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会の参加や避難訓練での知識はあるつもりですが 実際に適切な対応が出来るか不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練の実施 コロナウイルスの感染防止の為、消防署の立ち合いが行えず職員のみで行った。立ち合いの元、総合避難訓練の必要性がある。 風水害に関しても現状出来ておらず今後検討していく	市へ避難訓練への参加要請を行った際には、消防団員1名、島原地域広域市町村圏組合職員1名の参加があるなど、ホーム近隣及び行政との協力体制を築いている。今年度の台風接近時には法人内「台風対策会議」に管理者が参加し、予防策や不足物品の検討を行い入居者の安全確保に努めた。現在、法人へ停電対策として自家発電機の設置を要望として出している。	風水害訓練が実施できていない現状にある。職員の理解を深め、且つ有事の際の入居者の安全を確保するためにも、例えば防災計画書の読み合わせやマニュアルに沿った勉強会を開催するなど、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意を払いながら優しくゆくりと話す。場合によっては方言を交えながら会話を楽しんで頂く。 認知症の症状によっては理解が乏しく強い口調になる事もありスタッフ間で互いに注意しながら対応	昨年度、職員は法人内研修「認知症について」「接遇マナーについての視点とそのあり方」に参加し、日々の支援の振り返りを行い学びの機会とした。ホームではヒヤリハット事例を検討し対策を立てることで、入居者の行動を制限せず人格を尊重した安全な支援に繋げている。トイレ誘導時は小さい声でさりげなく誘導しプライバシーに配慮するほか、排泄失敗時も入居者が傷つかないように配慮し声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定がしやすい様に言葉かけを行っている 難しい様であればいくつかの選択肢を提供し希望に添える様にしている。 しかし、判断が困難な場合はスタッフで決定する事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく個々の生活ペースを優先していますが、業務に合わせた支援となっている部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様と一緒に選んで準備してもらっても気候や季節に合ったものかはこちらで判断し支援しています。 定期的に散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はスタッフがやっている。お手伝いではお盆並べやテーブル拭き等をして頂いていたが、感染予防の為今は行っていない 入居者様の誕生日の月には予め好きな物を尋ね出来るだけ提供するように取り組んでいます	食卓に並べられたホーム手づくりの漬物を取り分けたり、職員も一緒に会話しながら食事を摂ることで、食事が家庭的で楽しい雰囲気になるよう努めている。食欲が低下している方には本人が好むものを準備するなど食べてもらえるよう工夫しており、食欲低下や体重増減、嚥下状態について法人の管理栄養士へ相談し助言を得るなど、入居者に安心して食事をしてもらえよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた献立表があり毎食食事をチェックしている。 水分摂取の制限がある方がおりチェックリストを作成し記録に残す。 代替メニューなど個々に応じたメニューの提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科の往診があり。 毎食後の口腔ケアの実施や必要に応じた介助を行う		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元に個人の排泄パターンを把握し出来る限りトイレでの排泄が出来る様支援する	布パンツやリハビリパンツ、尿取りパットの適正な使用や大きさなどを検討する際、職員は入居者の尊厳を考慮するほか、活動の低下や認知症の進行に影響を及ぼさないかを考え、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。排泄は自室トイレに誘導しプライバシー保護に配慮している。食事や内服薬にて排便コントロールを行い、体調管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の好みに合わせヨーグルトや牛乳等の乳製品の提供や下剤を服用して排便コントロールを行っている。また適度な運動や水分補給などを行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人様が入浴を望まない場合は入浴日を変更し対応する 入浴順番もタイミングに合わせて入浴が出来る様に支援しています。 入浴拒否の方がおり対応に苦戦し清拭で済まされている。	職員は入居者のペースでゆっくりと会話を楽しみながら入浴できるよう支援している。浴室には浴室内手すり・滑り止めマット・浴室内補助台・シャワーチェアを準備し、安全に入浴できるよう努めている。冬場は体が温まるよう入浴剤を使用するほか、季節に応じてゆず湯・菖蒲湯を準備し、入居者の楽しみとなっている。入浴後は保湿剤を塗布し皮膚疾患予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごされる方も多いがお昼寝の時間を設けている。 また、体操やレクレーションを行い適度な運動を取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル内にお薬手帳がありいつでも確認出来る様にしています。薬の変更がある場合は申し送りノートに記録を残しています。薬の全ての副作用までは理解が出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人能力に合った役割分担の実施。 個人の意欲を引き出す様に支援出来た事を褒める事で意欲の向上に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら外出を希望される方はいませんが、受診や行事等で外出する程度である。 しかし、コロナウイルスの影響で外出支援が出来ず一度コスモス見学へ外出したのみである	職員は天気が良い日はテラスで日光浴を行い、季節の花々を眺めることで入居者の気分転換を図っている。今年度は入居者全員でコスモス見学に外出し、大変喜ばれていた。盆や正月に家族と外出する際には、職員から内服薬の説明や歩行介助の方法を伝え、外出が楽しいものとなるよう支援している。受診の帰りに入居者が以前住んでいた地域を巡り地元の風景を眺めるなど、昔を思い出す機会に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を持たれている方はいるが希望があれば職員が代行で購入し立替請求させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話を掛けるようにしています 携帯電話を持参されているが気づかれない事があり一緒に確認し折り返し電話する事もある。 遠方からお手紙が届くとお礼の電話をかけられる様に促す。毎年ご家族様へ年賀状を作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりも良く明るい。それぞれに特定の場所で過ごされる。また、季節に合った飾り付けを行っています	職員は入居者が笑顔で快適に生活できるよう環境づくりに努めている。リビングの窓からは明るく温かな光が入り、プランターに植栽された季節の花々を楽しむことができる。共用空間にはソファや畳の部屋があり、入居者が好きな場所で過ごせるよう配慮するほか、加湿器や空気清浄機で室温・湿度の調整を行い、入居者の健康管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには椅子、ソファ、和室には座椅子もあり自由に過ごせれる空間が提供できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染のある品を置いています。 必要に応じてご家族様やホームで購入しています。 写真や手作りの色紙や作品を飾り増えています。	居室の窓からは明るい光が入り温かな雰囲気がある。室内にはソファや家族の写真・手紙、布団などが持ち込むことができ、入居者にとって居心地の良い空間づくりに努めている。また、貼り絵など趣味で制作した作品を掲示することで趣味活動の継続に繋げている。清掃は毎日行っており、気になる臭いもなく清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室と確認出来る様に表札や飾り物で目印としています。コールボタンを押せない方には代わりにハンドベルを身近に配置して工夫している。		